

2018年6月5日

事業所長による保安に関する意見交換会

石油化学工業協会

経営層の保安への強化として、現場に最も近い経営層である製油所長・事業所長の保安に関する第6回意見交換会を、安全工学会と共催で岡山県の水島コンビナート地域にて下記の通り行った。

記

1. 日時；2018年5月7日（月）14：00－17：00

2. 場所；旭化成(株)水島製造所 大高研修所

3. 目的；

水島コンビナート地域において、保安の向上に日々努力している石油精製・化学系企業のトップにお集まりいただき、企業・業種の壁を越えて保安に関する意見交換を図ることで相互のレベルアップを図る。

4. 参加者；

(1) 企業 旭化成(株) 室園水島製造所長

クラレ(株) 津軽岡山事業所長

JXTGエネルギー(株) 佐倉水島製油所長

日本ゼオン(株) 小瀬水島工場長

三菱ケミカル(株) 神野水島事業所長

三菱ガス化学(株) 川端水島工場長

(2) 安全工学会 三宅淳巳（横浜国立大学教授）、湯本公庸（事務局）

(3) 石油化学工業協会 保安衛生委員長 成田睦夫（旭化成）、岩間啓一（事務局）

旭化成(株)関係者（大野氏、山本氏、高見氏）

3. 討議

出席者紹介の後、成田委員長の司会によりトップコミットメントについての意見交換から始まり、技術伝承・教育・新たな技術・定期修理時期における働き方改革などへの取り組みなどに進んだ。

(1) トップコミットメント

様々な工夫を凝らして社長、所長としての考え方の現場への浸透を図っている。

①従業員との対話・懇談の重視

- ・社長が定期的に現場と直接対話、安全へのこだわりの会話
- ・経営層と課長クラスで合宿、安全への思いを伝える
- ・層別議論で相互コミュニケーションの充実

②「安全をすべてに優先させる」の明確な発信

- ・全社員共通の合言葉「安全は全ての礎」

(2) 工場運営の施策

①安全活動のあり方

- ・ 全社共通の安全ガイドから各工場のガイドラインに展開
- ・ PDCAのうちの「CA」に重点をおいた活動
- ・ 事業所運営に課長を参加させて活動への納得感を強化
- ・ 活動のプロセスを大事にすることで安全文化を醸成
- ・ マニュアル化の弊害が表面化、考え方や姿勢を重視した指導を強化
- ・ 保安システムが充実し重大事故は減少、能動的に考える人材育成に注力
- ・ 人と人のつながり、コミュニケーションを大事にする風土を作る活動
- ・ My Plant意識の醸成

②労働災害防止への取り組み

- ・ 基本行動の意味を教育し確実な実行
- ・ 労働災害防止の仕組みだけではなく、アクティブラーニングなどの活動のスイッチを入れる仕掛けが必要

(3) 技術伝承

各社とも社内に新たな推進組織を設けIoT、AIなどの新技術の採用、評価を積極的に推進している。

- ・ IoT、AIに強い興味、知識を持つ社員を集めて、プロジェクトを推進
- ・ 新たなセンサーで運転データ-の相関から運転の異常を早期に発見し対応
- ・ 触媒のビッグデータ解析から活性劣化の相関を見つけ、劣化のメカニズムを明らかにして長寿命化
- ・ バッチ系の工場で運転日誌などのテキストデータを解析し、トラブルの早期発見
- ・ 回転機器を連続監視し異常を事前検知、従来の時間基準保全から状態保全に切り替え

(4) 働き方改革

①定修時対応

- ・ 工場内の各プラントの定修を年間に分散させて業務量を平準化
- ・ 2か月に跨いで定修を行うことで1か月あたりの残業を平均化
- ・ 周辺の工場で定修が重なるときは、社員・メンテ業者の通勤ルートを調整し、渋滞を緩和

②定常業務対応

- ・ 単なる残業の削減ではなく、会議の削減、作業の効率化などへの取り組み

以上